
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

向山小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

	課題	担い手
	<p>◎訓練日統一は難しい。9月、10月は部活動のため参加しにくい、12月は部活動もシーズンオフで参加しやすい。訓練時期を考えてみてほしい。</p> <p>□一斉に訓練を行う候補日を2つ程設け、大会や行事を入れないよう諸団体をお願いする。訓練と行事が重ならないよう、前年から調整し決められるといい。</p>	自
④地域と学校の連携・防災教育	<p>◇南高校の生徒と避難訓練実施。園児の避難は大変なので、地域とのつながりが大切。(大場幼稚園)</p> <p>◇中学生が幼児の手を引いて避難するような連携が地域にあるといい。</p> <p>◇◆中学生は、平日昼間に災害が起こった場合、一番活躍できる。教育で防災意識を高め、防災活動に参加する子どもを育てたい。</p> <p>□学校では避難訓練が主だったが、今後は救助訓練にも力を入れてほしい。</p> <p>□地域の防災訓練などに学校が参加してみても面白いと思う。連携が深まる。</p> <p>⇒○□自治会や中郷中学校でジュニア防災士育成を促進。</p> <p>◇ジュニア防災士育成は中学校にもお願いしてあるが、部活動などの理由で応募者は低迷している。ぜひ参加してほしい。</p> <p>□各自治会ではジュニア防災士の子どもたちを紹介し、積極的に声かけをしてほしい。また訓練では子どもたちに役割を与えてもらいたい。</p> <p>⇒□中郷中学の宿泊学習に参加した娘が帰宅後、ジュニア防災士育成の問題集を使って問題を出すなど、家族で防災に関する話題で盛り上った。</p> <p>□子どもから大人へ伝わる。子どもを入口に大人の防災意識を向上させていく。</p>	<p>校区全体</p> <p>中</p> <p>自・中</p> <p>自・小・中</p>
⑤防災組織の体制強化	<p>○消防団員不足が大きな課題。団員をどのように確保すべきか、自治会にも協力してもらって検討していきたい。</p> <p>●避難所は自宅に住めない状況の人が避難する場所だと住民に周知すべき。</p> <p>●住民各自が、備蓄品を用意することが大事。</p> <p>◇丘に住宅があり、火災が発生した場合消火手段がない。出来るだけ各自で消火器を備えてもらうよう呼びかけたい。(夏目木)</p> <p>△◇□中地区は液状化、パサディナは崖崩れが心配。対策が必要</p> <p>□地区毎に地形的な特徴があるので、実際の被害想定をある程度シミュレーションし、それに見合った組織をどう作り直していくかが重要だと思う。</p> <p>◆3.11 大震災を風化させない土壌づくりも大事。</p> <p>◆日中の災害対応が課題。自主防会員に会社員が多く、地域にいない可能性が大きい。</p> <p>◇毎年役員が変わるので、防災の知識がない。サポートしてくれる方が、複数年に渡る仕組みを考えていきたい。(多呂)</p> <p>⇒◆役員が毎年交代する対策として、前年度の委員が必ずサポートする。(東大場)</p> <p>⇒◆自主防災会を別組織として立ち上げ中。(多呂)</p> <p>⇒◆消防団 OB 会に協力を仰ぎ、防災組織強化を図っている。(中)</p> <p>⇒●◇◆自主防災会対策強化委員会を設置し、委員長は町内会長と同じ権限を持つシステムを町内に徹底。(中島)</p>	<p>消・自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p>

	課題	担い手
	⇒◆自治会独自の防災マニュアルを作成。(三島パサディナ) ◆保健委員の訓練での役割を検討したい。 □年一回の防災訓練と各家庭の備蓄、自助と共助、それ以上を自治会が行なうということがいいと思う。	自 自・保
地域の連携	①地域活動への参加促進 ◇□地域行事への住民参加率が低い。行事の数も減少、行事の担い手が少なくなっている。→【■②テーマ別会議(P6)に発展】 ◇若い人の参加は「子どもは地域の宝事業」や祭りをきっかけにしたい。 ◇住民のふれあいの場づくりや、行事で子どもが楽しめる工夫が大事。 □子ども達を地域の色々な催し物に引っ張り込み、地域のコミュニケーション向上や防災訓練への参加促進につなげる。 →【■①テーマ別会議(P5)に発展】 ○●運動会は年齢を考慮した種目を考えるなど、多世代が参加し交流できるものにしたい。	自 スポーツ推進委員 体育振興会
	②挨拶・ふれあい(交流)の促進 ◇現役世代にも積極的に話しかけてほしい。 ◎子どもや地域の人が、役員の顔と名前がわかる機会があるといい。 ⇒◆子ども会行事に町内4役が出席。挨拶の大切さを伝えている。 ◆散歩中に挨拶する姿が多く見られる。もっと挨拶を広めたい。 ⇒◆自治会役員に声かけを推奨している。 □地域の大人が、地域の子どもの声をかけ、日頃から挨拶を交わしてほしい。特別なふれあいをしなくても、地域の方と顔見知りになれる。	校区全体 自・子 校区全体 自
	③高齢者支援 ⇒▲老人会の各サークル発表を子ども会と連携して実施。 ⇒●老人会で月1回活動。きずなづくりを実施。 ○◆高齢者は地域が社会との唯一のつながり。引きこもり防止のため、地域に入らない高齢者に対し声をかけ続けてほしい。 ○組の一人暮らしの高齢者を集めてお茶会を行った。これからは自治会と協力していきたい。(民生委員) ⇒◇「ひだまりの会」を立ち上げ100円会費で活動。(民生委員) ◆一人暮らしの高齢者も「ひだまりの会」に3、4人は来ている。町内会長と話し合い、しっかりやっていきたい。 ○坂が多く、足が悪いとバス停まで歩けない。近くにバス停がほしい。(夏目木) ◇◆中地区は買物しにくい地区。朝市開催など、高齢農家の野菜や雑貨を売買できる場所・機会をつくってほしい。(中)	老・子 校区全体 自・民 校区全体
	④環境整備 ○平成18年から花の公園を整備しているが後継者不足。伝統はないが住宅地なりのまちづくりをしたい。 ○□河川公園に100匹程のホタルが生息。公園は地域の方が集まる最高の場所。公園の活用をさらに進めていきたい。(三島パサディナ) ⇒□「ホタルの会」の有志を募り、公園整備とホタルの育成管理を始めた。 ○古墳公園や東駿河湾環状道路が完成したことで、公園に色々な人が来るようになり、不審者が現れないか心配。見守る人が必要。	校区全体

■H26. 11. 05 テーマ①「子ども達の地域での活躍の場を考えよう！」

●地域内での子ども達の活躍の場について、皆さんのアイデアや意見を出し合いました。

地域の中で「子ども達が活躍できる場」ってどんなことがある？

★夏祭り・納涼祭



出店

○子ども会が企画し、子どもが駄菓子等販売の店番をする。親が1人付き添う。(錦が丘自治会)
⇒中学生や高校生に入ってもらい、親の代わりにサポートしてもらってはどうか。

お祭りの企画

○地区の祭典行事の企画、運営、出店などへ、中学生の協力を得る。
○お祭りの内容を企画運営する。
⇒企画段階から、中学生や高校生も話し合いに加わってはどうか？

幼稚園では中学生や高校生と交流がある。学生自身が交流の内容を事前に考えて、しっかりと実践してくれる。

その他

- しゃぎり⇒子どもが伝統を守る。
- 小・中学生もカラオケにも参加してほしい。
- 子どもに納涼祭に大勢参加してもらいたい。
- 各自に担当できる場所をつくり参加させる。

★地区の運動会

実効性のあるものへしていこう!!

- ★地域一斉は困難でも、まずは小さいグループから輪を広げていく！そのパイプをどうしていくかが課題。
- ★連絡を取り合えるような関係づくり、話し合いの場の設定を進めていこう。

★地域ボランティア (主に中学生)



環境美化

- 中学生などに地域の花壇・公園の整備活動に参加をしてもらう。大人と一緒に活動を。
 - 地区の奉仕活動(清掃)と防災訓練を合わせた活動等への中学生の参加。
 - ゴミ拾いに子どもの参加。(南高校が月一回ゴミ拾いを実施しているが、地域からの参加は少ない。)
- 錦田中学生と地元の「松並木と一里塚を守る会」が一緒に、年6回松並木清掃を実施。14~15年続いている。
- ⇒子どもは評価されたり、地域の為に役立っているとわかるとすごくはりきる。
 - ⇒子どもにボランティアできる場や情報提供が必要。
 - ⇒錦田中学校には、地区別の生徒会グループがある。町内の会長さんとうまく繋がりながら、地域行事で活躍できるアイデアを出させる。
 - ⇒中学生は部活動があり時間的制限がある。PTA・学校・地域のすり合わせ(協力)が必要。

★廃品回収の手伝い



- 中学生の参加が多い。今後も続けてほしい。
- ・回収方法は各地域(町内会)でやり方が様々。

★地区の防災訓練



運営

○防災訓練を中学生が運営する。

具体的な仕事を与える

- 汚水マスの開放。(長時間停電の時は、下水機能が使えないので、操作の確認と地域住人の理解が必要)
- トランシーバー無線の勉強。
- 炊き出し訓練。
- ⇒実際に役に立つ事をやらないと、子どもは興味を持たない。
- ⇒「必要な技術を学べられる」「役に立つこと覚えらるる」というメリットを感じさせる。

大人が子どものやる気をおさえない!! 積極的に教えながら、子どもと接してほしい。

学校には地域の情報が入ってこないなので、教えてほしい!
⇒情報があれば、学校も協力できる。



■H26. 11. 05 テーマ②「地域の行事に新たな参加者を増やす方法を考えよう！」

(テーマ②班：参加人数 11名)

●新たな参加者とは誰か、出て来ない人達を地域行事に参加させるにはどんな工夫が考えられるか、話し合いました。

「地域の行事」とは？

- ・防災訓練
- ・側溝清掃
- ・校区祭・お祭り
- ・老人祝賀会など

「新たな参加者」とはどんな人たち？

若者・現役世代

- ・小・中・高校生
- ・20～50代の男女
- ・親子

障害を持った方

- ・あまり顔を知らない方
- ・町内会未加入者
- ・アパートの住人

お年寄り

- ・引きこもりがちなお年寄り
- ・1人暮らしのお年寄り
- ・高齢の町内会未加入者

- ・何も趣味がない人
- ・老後に他地域から移住してきた人
- ・地域とのつながりがないが、災害時に一番援助を必要とする人達

「災害時の為に」
町内の知り合いを明確にしておく

交流がほとんどなく、
回覧板を回すのがやっと

なぜ出て来ないのか？

★人間関係や地形の問題

- ・人間関係(嫌いな人がいる等)
- ・人付き合いを嫌がる
- ・坂道があり家から出ない

★活動は活発でも同じメンバー

- ・福寿会(東大場)では老人会活動は活発だが、いつも同じメンバーしか出て来ない

防災訓練の参加者を増やす工夫

アクション

■小学生は「楽しみながら親子で参加」

- ・北上小「イザカエルキャラバン」実施予定⇒親子でゲームを通し防災訓練ができる
- ・親子で参加できるプログラムの工夫

学校の力を借りるのも一つのアイデア

日頃出て来ない人が、参加しやすくなる「しかけ・雰囲気づくり」

- ・一番頼りになるのは中・高・大学生
- ・来ない理由は①自意識が強い②部活
- ・中学生は参加したいと思っているが、部活と重なり参加できない

アクション

■中・高校生は「訓練日の統一」や「証明書発行」などの工夫が有効

- ・地域で防災訓練の日時をなるべく統一
- ・スポーツ団体に大会の日程調整をもらう(現実的には難しい)
- ・高校生は学校側から働きかけてもらう(参加証明書があると参加する)

アクション

■こちらから出かけよう！(きっかけづくり)

- ・西小では子ども達でグループを作り「かけこみ110番の家」へあいさつして回った
- ・出ない人を出すことはできない。こちらから出かけていくことが、一つのきっかけになる
- ・訪問し、声をかけることが楽しみながらできるような仕組みを作れば顔見知りになる
- ・全部一度にやらず、日にちを決め順番にやる(できるところからやる)

アクション

■組単位、隣近所でつながりを作ろう！

- ・組単位の活動を重視⇒組単位で住民の情報を把握⇒組単位で災害時対応する(夏梅木)
- ・隣近所の声かけ運動

アクション

■魅力ある活動を考えよう！

- ・魅力ある内容であれば参加するかもしれない
- ・敬老祝い金を配布するのではなく、皆で集まってお祝いした⇒参加率 90%。今まで出て来なかった方も来た。継続できるとよいが次の自治会長がやるかどうかは不明

アクション

■地域活動に意欲のある方を活用しよう！

- ・「地域安全サポーター(レインボー講座)」受講者
- ・講座が実践に結びつくとやる気UP
- ・地域にいる人材を地域は全く知らない⇒人材の情報が地域に流れるシステムづくり

- ★参加者は年々増加
- ・訓練に南高生 4名参加
- ・夏祭り、敬老大会も増加

現役は忙しい。日程統一も難しい。現実には高齢者がやるしかないのでは？

地域とつながりのない方と顔見知りになる仕組みや、地域活動に意欲のある方と協力できる体制を作ろう！



補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 向山小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・保・小・中
夏梅木町内会 三島パサディナ自治会 多呂自治会 中自治会 中島町内会 東大場町内会 北沢町内会 錦が丘自治会 大場町内会 谷田城ノ内自治会 中郷地区自治会連合会	環境美化推進委員会 保健委員会 民生委員児童委員協議会 中郷女性学級 消防団第 8 分団 消防団第 9 分団 消防団第 16 分団 エコリーダー 交通安全母の会 地域包括支援センター 地域づくりコーディネーター	大場幼稚園 大場幼稚園 P T A はったばた幼稚園 P T A 若葉保育園 向山小学校 向山小学校 P T A 中郷中学校 中郷中学校 P T A 錦田中学校 錦田中学校 P T A
老人クラブ	スポーツ関係	子ども会
夏梅木幸生会 東大場福寿会 多呂北沢双葉会 中島喜楽会	スポーツ推進委員会 向山小学校区体育振興会 体育指導員会	夏梅木子ども会 三島パサディナ子ども会 多呂子ども会 中島子ども会 東大場子ども会 錦が丘子ども会 大場子ども会 三島市子ども会連合会

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.06.15 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.18 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.07.06 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.11.02 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.06.07 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.01 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.06.06 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.11.05 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
テーマ「①子ども達の地域での活躍の場を考えよう！」(P5 掲載)
「②地域行事に新たな参加者を増やす方法を考えよう！」(P6 掲載)

◎：市の意見・回答

(※担い手略称 体振会：体育振興会、スポ推委：スポーツ推進委員)

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
①訓練内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本物を使い消火器訓練実施。母親や子どもたちから練習させてほしいという声があった。(錦が丘) ●今までやってきた訓練を、バージョンアップする気持ちでやっていく。(多呂) ●若干マンネリ化していると感じる。参加者は毎年400名前後。(東大場) ●訓練はしていない。防災意識向上のため、防災センター見学や、防災キャンペーンを行なっている。(中) ◇毎年色々なテーマを持ち、訓練実施。起震車などは、震災時の状況を共通理解でき、評判がいい。今年は消火栓の位置を確認した。(三島パサディナ) ◇高齢者の参加は多いが、若い人の参加が少ない。(三島パサディナ) □子どもたちの防災意識は高いと感じている。市では「三島で起きた震災に関する小冊子」を発行し、小中学校に配布している。たいへん良いものだが、子どもは知っていても大人はその小冊子のことを知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●救出・救護、担架など中高生に積極的に参加してもらいたい。 ◇若者の意識を高め、若い人の参加を増やしたい。 □この小冊子を訓練時に配布すれば、子どもだけではなく大人も情報を知ることができ、防災意識の向上につながる。市で配布を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 高校生 自治会 市 	
②要援護者の支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ◇組の弱者は組の人で援護する。担架を使用した運搬訓練や、「黄色いハンカチ」を使用した訓練を実施。(中島) ◇台車を2台購入した。(中島子ども会) ◇要援護者31名の他に1人暮らしだが援護は出来ないという人が27名いる。高齢者の避難は難しい。 □高齢世帯に誰がいくか、非常に細かい名簿があるので、それを見ながらやっていく。(三島パサディナ) □今年是要援護者のマップを作る。名前は入れず、各組のどこに、どういった高齢者や子どもが何人いるかといった具体的な地図を作り、各組長と防災リーダーに配布する。いかに効率的に避難するかということを進めている。(中島) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎防災倉庫にリヤカーを置いている町内も多くある。活用してほしい。 ◇日頃の活動以外にも、お年寄りや災害弱者を助けるために使用してほしい。(中島子ども会) ◎要援護者リストを活用し、各自治会で対策を立て、具体的な取り組みにしていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 自治会 民生委員 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒□詳細な名簿がある。高齢世帯の救助に利用。 ⇒□要援護者マップを作成し、各組長と防災リ-

現況	課題	担い手	結果・実績 タ-に配布 予定。
③子どもの参加			
<p>●県の防災センターへ 100 名連れて見学に行く予定。そのうち半分が小中学生。(錦が丘)</p> <p>◇自主防災会と子ども会と一緒に訓練を行う。8月中旬なので、どうもろこしを焼くなどの取り組みを実施。(中島)</p> <p>◆子ども会、生徒会に声をかけ、子ども達は多く参加した。(錦が丘)</p> <p>◆夏祭りと防災訓練を同時に実施。町内の子ども 17 人全員参加した。(北沢)</p> <p>◇◆訓練への子どもの参加が少ない。子どもが取り組みやすい項目を増やしたが、参加は少なかった。(夏目木)</p> <p>◆以前、数名の中学生が来て、地震の研究や、防災の心得を発表してくれた。先生も参加してくれ、とてもよかった。(三島バサディナ)</p>	<p>●数十年後にくる地震を想定し、子どもたちを立派な戦力として育てたい。</p> <p>◇錦が丘では小中高校生は多く出席している。子どもの集め方を勉強したい。</p> <p>◆興味を失わないよう、実態に即した訓練を行っていく。</p> <p>◆子どもの参加は、子ども会に協力を頼むといい。</p> <p>◆バケツリレーやリヤカーなど、子どもの参加しやすい項目に取り組んでいきたい。</p>	<p>自治会 小学生 中学生 自治会</p> <p>自治会 子ども会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒●小中学生が防災センター見学。</p> <p>⇒◇自主防と子ども会が連携。</p> <p>⇒◆子ども会・生徒会への声かけ、行事と訓練同時実施で子どもの参加増加。</p>
<p>●子ども達はメリットがあると参加することが多い。</p> <p>◆備蓄用の乾パンを分けている。子ども達は乾パンをもらいにくる。</p>	<p>◇何かにつられてでも参加するような体制作りが必要。</p> <p>◇参加証明書など、子どもの参加しやすい訓練に取り組みたい。</p> <p>◇人形劇や着ぐるみ、イベントなど、楽しいと思えることがあると参加しやすいのではないか。</p>	<p>自治会 小学生 中学生</p>	
<p>◇子ども達の受け入れ態勢をどうするか考えている。(夏目木)</p> <p>◆防災訓練で子ども達の受け皿があれば出席を促せる。(中郷中)</p>	<p>◇受入れ態勢を整えないと、何もせず帰ってしまうことも考えられる。</p> <p>◎AED や運搬訓練、炊き出しなど、中学生の役割を各自主防災会で考えてほしい。</p>	<p>自治会</p>	
<p>◆中学生は、部活動や塾などがあり、地域の時間にあわせた防災訓練参加は難しい。</p> <p>□小・中学生はクラブチームに入っていたり、習い事をしている子どもがとて多く、土日は参加が難しい。</p> <p>◆全学校を午前終了とし、午後、各地域で防災訓練を実施すれば、部活動、幼稚園や小学校など広範囲の協力・連携もとりやすくなる。(中郷中)</p> <p>□中学生の参加については、各地区の防災訓練の日程が一緒だいい。最近子どもの数が減り、部活の大会など、試合に出る人数が揃わず困ってしまう。</p>	<p>◇地域の防災訓練に参加しやすい環境があるといい。</p> <p>◇仕事を持っている母親も多い。子どもが参加出来るような職場環境も大事。</p> <p>□授業の一環として学校全体で訓練を行なうといいのではないか。</p> <p>□小・中学校が連携して、訓練日程を同じにすることなどが、課題になるのかと思う。</p> <p>◆市全体で地域防災の日を設定し訓練を実施してはどうか。</p> <p>◎市全体の訓練日統一は難しい。9 月、10 月は部活動のため参加しにくい、12 月は部活動もシーズンオフで参加しやすい。訓練の時期を考えてみてほしい。</p> <p>□一斉に訓練を行う候補日を 2 つ程設定し、その日は大会を入れないよう色々な組織にお願いすれば、中学生も参加しやすくなる。</p> <p>□子どもが参加可能かどうか情報を集め、訓練日と行事が重ならないよう、前年から調整して日程を決めれば、参加率向上につながる。</p>	<p>自治会</p> <p>市</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
④地域と学校の連携・防災教育			
<p>◇南高校の生徒と日頃から交流し、避難訓練を行なっている。(大場幼稚園)</p> <p>◆保育園では老人会との交流は活発だが、災害時の協力体制はなく不安。</p> <p>◆東北の震災では、避難所生活が長かった。三島の場合はどうすべきか、職員や園長会で検討中。(大場幼稚園)</p> <p>◇学校から子ども達に、訓練参加を呼び掛けているが、聞いてみると参加は少ない。</p> <p>◆中学生は、平日昼間に災害が起こった場合、一番活躍できる。</p> <p>□組織が物事を決めるのは時間がかかる。日程を一つの日に調整するのは難しい。それよりも、学校で防災に取り組んでくれるといいのではないか。</p> <p>□今は人間関係が希薄になっている。地域で意識的にコミュニティを作っていく、それに学校も参加していく必要がある。</p>	<p>◇園児の避難は大変なので、地域とのつながりが大切。</p> <p>◇中学生が幼児の手を引いて逃げるようなつながりが地域にあるといい。</p> <p>◇教育で防災意識を高め、防災活動に参加する子どもを育てたい。</p> <p>◆中学生が何らかの形で地域の役に立てればいい。</p> <p>□今までは学校は避難訓練が主だったが、今後は救助訓練にも力を入れるといい。無理やり地域の訓練に参加させなくても、実際の場で活躍できるようになるのでは。</p> <p>□地域の防災訓練などに学校が参加してみても面白いと思う。学校と地域の連携が深まる。</p>	<p>校区全体</p> <p>小学校 中学校 中学生</p>	
<p><ジュニア防災士育成></p> <p>□平成 22 年からジュニア防災士育成をやり始めた。三島市内で現在 131 人が県知事名で認定証を受けている。</p> <p>●◇ジュニア防災士育成は小・中学生を対象に実施。参加者はどちらも 10 人程度だが、防災士要員を中心に、防火水槽の場所確認や防災倉庫の点検など、町内で活動している。(夏梅木)</p> <p>●20～30 名のジュニア防災士の訓練をする予定。(錦が丘)</p> <p>□中郷中学校では、今年度は防災教育に力を入れている。防災士の方、危機管理課の協力を頂き、5/23 に宿泊学習を兼ねて、一年生がジュニア防災士の養成講座を実施した。普段できない体験を半日程かけて行なうことができ、たいへん有意義だった。</p>	<p>◇部活動などの理由で応募者は低迷している。ぜひ参加してほしい。</p> <p>●中学校にもお願いしてあるが、多数に応募してもらいたい。</p> <p>□各自治会では、ぜひジュニア防災士の子どもたちを紹介して頂いて、積極的に声かけをしてほしい。また訓練では子どもたちに役割を与えてもらいたい。</p> <p>□宿泊学習に参加した娘が帰宅後、問題集を使って問題を出すなど、家族で防災に関する話題で盛り上った。</p> <p>□子どもから大人へ伝わる部分もある。子どもを入口に防災意識が向上していく。</p>	<p>自治会 小学校 中学校</p>	<p>⇒●自治会でジュニア防災士育成を促進。</p> <p>⇒□中郷中でジュニア防災士の養成講座実施。</p>
⑤防災組織の体制強化			
<p>○10～15 年消防団員をやっている人が多く、若手が入ってこない。(消防団)</p>	<p>○団員不足。団員をどのように確保すべきか、自治会にも協力してもらい検討したい。</p>	<p>消防団 自治会</p>	
<p>◇避難所は向山小だが、橋が決壊したら避難できない。役員と避難所の見直しを図っている。(中)</p> <p>◇丘に住宅があり、火災が発生しても消火方法がない。防火水槽、消防車等は下にあり、対応できない。自宅に雨水をため、バケツで汲めるようなタンクを取り付けた。それくらいしか方法がない。(夏目木)</p>	<p>●避難所に行くのは最悪の場合と、皆が認識する必要がある。</p> <p>●各自、備蓄品を用意することが大事。</p> <p>△◇中地区は液状化も心配。対策が必要。</p> <p>◇消火手段がないので、出来るだけ消火器を買ってもらおう呼びかけたい。</p> <p>□地区毎に地形的な特徴があるので、実際の被害想定をある程度シミュレーションし、それに見合った組織をどう作り直していくかが重要だと思う。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p>	
<p>◇組長が班長になっていて、教育がうまくいかない。(夏梅木)</p> <p>◆会長は毎年交代し、現状維持が精いっぱい。防災訓練がお荷物になっている。(中島)</p> <p>◆役員が毎年交代する対策として、防災訓練まで</p>	<p>◆3.11 大震災を風化させない土壌づくりも大事。地域づくりに苦心すべきだと思う。(中島)</p>	<p>自治会 自治会</p>	<p>⇒◆役員が毎年交代する</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>前年度の委員長や委員が必ずサポートしている。(東大場)</p> <p>◆自主防災組織をしっかりしたものにするため、消防団のOB会に協力を依頼、協議している。(中)</p> <p>◆保健委員の活動に救護やAEDの講習会などがあれば、訓練時にサポート活動ができる。(保健委員)</p> <p>◆他地区の事例だが、富田町では高校生が防災委員になる。また防災リーダーは4、5年継続する。町内の人は安心できる。(民生委員)</p>	<p>◆保健委員の訓練での役割を検討したい。</p> <p>◆自主防会員に会社員が多く、災害時、自治会にいない可能性がある。日中の災害時の対応が課題。</p>	自治会 消防団 保健委員	<p>対策として、前年度の委員がサポート。</p> <p>⇒◆消防団OB会に協力を仰ぎ、防災組織強化を図っている。</p>
<p>□東日本大震災の時、昔からのふれあいやきずながある地域は、特別な防災組織がなくても非常にうまく対応できていた。</p> <p>□一番肝心なことは地域コミュニティだと思う。大人と子どものコミュニケーションがあれば、そんなに訓練していなくてもお互いに協力できる。</p>	<p>□日頃の自治会等の行事が大事。年一回の防災訓練と各家庭の備蓄、自助と共助、それ以上を自治会が行なうということがいいと思う。</p> <p>□特に安全教育など、大人から子どもまで参加したコミュニティを地域でやってくると、子どもも安全だと思う。</p>	校区全体	
<p><中島></p> <p>●新規の取り組みとして、自主防災推進委員を公募した。40～50代の4名が立候補してくれた。</p> <p>◇自助と共助の精神を毎月の会合で強くお願いしている。</p> <p>◇◆自主防災会を、自主防災会の対策強化委員会とし、男女それぞれをリーダーとして推進委員を設置。災害時、自主防災会委員長は、町内会長と同じ権限を持つシステムを町内に徹底した。</p> <p>◆市の自主防災組織リーダー研修会に、委員長と副会長が参加し、リーダー認定された。</p>	<p>◎組織をしっかりと呼びあげ、訓練内容も素晴らしかった。ぜひ見学にいったほしい。</p>	自治会	⇒●◇◆自主防災会対策強化委員会を設置し、委員長は町内会長と同じ権限を持つシステムを町内に徹底。
<p><多呂></p> <p>◇◆歴史は古いが、毎年、役員、組長は交代するので、防災の知識がない。中島地区の取り組みを話し合い、町内に意見を諮ることになった。</p> <p>◆中島のように、自主防災会を別組織として立ち上げ始めている。</p>	<p>◇サポートしてくれる方が、複数年に渡る仕組みを考えていきたい。</p>	自治会	⇒◆自主防災会を別組織として立ち上げ中。
<p><三島パサディナ></p> <p>◆自治会独自の防災マニュアル作成。各組が4人防災リーダーを選出し、毎年研修会を実施する。防災意識の向上につながる。</p> <p>◆全世帯の名前、年齢を組長が把握。幼児～小3までと、動けない高齢者、障害者を要援護者とする。家族が要援護者一人につき一人、対応する。</p> <p>◆中学生以上は全員防災組織に加入。</p> <p>◆消火救出、搬送介護の2グループに分ける。訓練時には班長が点呼し、訓練と集会場に行く人にわける。上級生や中学生は消火訓練を行い、集会場では防災指導員がビデオ上映やゲームで防災意識を高めている。</p>	<p>□パサディナは階段が多く、崖のようなところに家が乱立している。崖崩れの対策として、これからどうやって防災訓練や組織体制を見直していくか、また新しい課題に取り組んでいくか等を、地域の防災リーダー会議で話したいと思う。</p> <p>◎土砂崩れは福岡県志賀島の被害例(福岡県西方沖地震/2005年3月発生)が参考になると思う。被害状況と対応方法を研究してほしい。</p> <p>□昨年「黄色いハンカチ作戦」を実施している。それを徹底する。</p>	自治会	⇒◆自治会独自の防災マニュアルを作成。
<p><大場></p> <p>□大場町内会は、避難所が南高校と中郷中学になっている。役員も倍必要だし、本部をどこに置かかということもある。区割りを検討してほしい。</p>	<p>◎大場は大きいので、避難所を2ヶ所、設定していると思う。指揮命令系統と連絡体制を自主防災会で話し合ってもらいたい。その際、市の危機管理課も参加するといい。</p>		

現況	課題	担い手	結果・実績
2. 地域の連携			
①地域活動への参加促進			
<p>◇何をやっても参加率が低い。意識が低く大変困っている(中)</p> <p>◇自治会活動にも参加しづらい若い方を、どう自治会に取り込んでいけばいいのか。(北沢)</p> <p>◇◆運動会や祭りに熱心な町内は、コミュニケーションが取れている。町内行事に積極的に参加するムード作りを心掛けている。(中島)</p> <p>◆校区祭まで、子ども会と一緒に行事を行う。(東大場)</p> <p>◆山の中なので、各組が草取りを年3回実施。また夏祭りでは組ごとに出店する。活動の中でつながりができている。(三島バサディナ)</p> <p>□1月にどんど焼きを子ども会が中心に実施していたが、3年前から「子どもは地域の宝事業」と一緒に、町内会で運営する状態である。もちつきやゲームなどを行い、地域のお年寄りも参加している。(夏梅木)</p>	<p>◇うまくいった事例を知りたい。</p> <p>◇「子どもは地域の宝事業」や、夏祭りなどをきっかけにしたい。</p> <p>◇住民の触れ合いの場をいかに設けていくか、地域の行事を子どもがいかに楽しめるか、工夫が大事。</p> <p>□子どもを地域の色々な催し物に引っ張って来て、「中島地域は大人が子どもと遊んでくれる地域」という意識を持たせながら、防災にも誘っていく。防災訓練にも子どもが遊べるちょっとした楽しみを入れたり、夏休みに小・中・高校生を招いた勉強会や暮れのもちつき大会などを、今後実施したいと思案中。(中島)</p> <p>□以前は盆踊りがあったが、なくなってしまった。イベントの担い手が少なくなっているのだと思う。</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p>	
<p>○スポーツ行事参加者の高齢化が進んでいる。(スポーツ推進委員)</p> <p>●運動会は8町内会で実施。年齢制限があり、全員が参加できない。(体育振興会)</p> <p>●運動会では、地域から出ている委員の動きがとてもよく、運営がスムーズだった。住民が集まって協力する機会は減っているの、きずなづくりをするよい機会だと思う。(スポーツ推進委員)</p>	<p>○運動会などでは年齢に合わせた種目を考えるなど、皆が参加できるものにしていきたい。</p> <p>●老人と子どもと一緒に遊べる種目をつくりたい。</p>	<p>スポ推委</p> <p>体振会</p>	
②挨拶・ふれあい(交流)の促進			
<p>○挨拶がきずな作りの第一歩。</p> <p>◇子どもを連れて歩いているときのほうが、地域の人に話しかけられやすい。(中郷中 PTA)</p> <p>◆町内に子ども会と一緒に行事が年3回ある。町内4役が出席し一緒にゲームをし、挨拶は何のためにするのかも話す。小学生はよく声をかけてくれる。(中島)</p> <p>◆小学生の時に人間関係を構築することで、中学生でも挨拶してくれる。</p> <p>◆地域の連携と高齢者の問題は同じで、基本は挨拶運動。役員に声かけを推奨している。(東大場)</p> <p>◆定年を迎えた方、元自治会長などが防犯パトロールを実施。学校からも父兄に協力を要請している。(中郷中 PTA)</p> <p>◆PTA 役員が朝の見守り時に挨拶実施。</p> <p>◆登校時、交通指導しながら挨拶すると、小・中・高校生も返事がある。</p> <p>□最近、小学校に苦情がくる。「子どもたちが田んぼの中に石を投げ入れる」、「あぜ道で遊んでいる」、「道路でスケボーをしているから、学校で注意してくれ」といったもの。</p>	<p>◇若い世代を取り入れていくため、若い人にも積極的に話しかけて欲しい。</p> <p>◎町内毎に集まり、地域の人々の顔と名前がわかる機会があるといい。</p> <p>◆地区で散歩中に挨拶する姿が多く見られる。もっと挨拶を広めたい。</p> <p>□ぜひ地域の大人が、地域の子どもの声をかけてほしい。日頃からあいさつを交わしてほしい。地域の色々な方から子どもに声をかけていけば、特別なふれあいをしなくても、地域の方と顔見知りになる。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>子ども会</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒◆子ども会行事に町内4役が出席。挨拶の大切さを伝えていく。</p> <p>⇒◆役員に声かけを推奨している。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
③高齢者支援			
<p>▲老人会の各サークル発表を子ども会と連携し実施。囲碁、ハーモニカ、ゲートボール、輪投げの4教室を子どもたちと行なった。参加者は少なかったが、一つのきっかけはできたと思っている。</p> <p>○東大場老人会は135名ほど会員がいる。(東大場老人会)</p> <p>●月に1回、市の福祉センターに行き、昼食やカラオケ、風呂など、きずなづくりを実施。みんな楽しみにしていて喜ばれている。(夏梅木幸生会)</p> <p>○一人暮らしの高齢者は近所の方を知らない。(民生委員)</p> <p>◇昨年「ひだまりの会」を立ち上げた。公民館を借り100円会費で活動している。目的は地域の人と顔見知りになること。介護予防も兼ねる。現在平均20名の利用がある。姿が見えない人は訪問するので、様子がわかる。</p>	<p>▲子どもたちは老人会サークル活動で普段出来ないことをやらせてもらい、とても喜んでいて。毎年の行事にしていきたい。</p> <p>○高齢になると地域が社会との唯一のつながりとなる。地域に入らない高齢者に対して声をかけ続けることが大事。</p> <p>◆お年寄りへの声かけは引きこもり防止になる。声かけを行なってほしい。</p> <p>○組の一人暮らしの高齢者を集めてお茶会を行った。これからは自治会と協力していきたい。</p> <p>◆一人暮らしの方も「ひだまりの会」に3、4人は来ている。町内会長と話し合い、しっかりやっていきたい。</p>	<p>老人会 子ども会</p> <p>校区全体</p> <p>老人会</p> <p>民生委員 自治会</p>	<p>⇒▲子ども会と老人会が連携。</p> <p>⇒●老人会で月1回活動。きずなづくりを実施。</p> <p>⇒◇「ひだまりの会」を立ち上げ100円会費で活動。</p>
<p>○団地は坂が多く、足が悪い人はバス停まで歩いて行けない。</p> <p>◇◆中地区は買い物しにくい地区。高齢世帯の農家が、近くで野菜を販売する場所があると良いと話していた。</p>	<p>○足が悪い人のために、新しいバス停ができるといい。(夏目木)</p> <p>◇◆週一程度で朝市を開催できないか。野菜や雑貨を売る機会や場所があるといい。(中)</p>		
④環境整備			
<p>▲10年間、ブロック塀で囲んであるごみ集積所が真っ黒だった。今年、組長等約20名で、11か所全部きれいに塗った。自分たちで自分たちの場所をきれいにしていくことが基本だと思う。それからは皆さん気を遣ってくれるようになった。(錦が丘)</p> <p>○平成18年から花の公園を作っているが、後継者が不足している。(東大場)</p> <p>○□河川公園に現在100匹近いホタルが飛んでいる。平成25年度から「ホタルの会」という名目で有志を募り、公園の整備とホタルの育成管理を始めた。家族連れや友達同士で来た方などが楽しんでいる。(三島バサディナ)</p> <p>○古墳公園や東駿河湾環状道路が完成したことで、人や車の流れが変わっている。(中郷女性学級)</p>	<p>○伝統がない住宅地なりのまちづくりをしたい。</p> <p>○□あんな山の中にホタルがいることは驚きなので、皆が見学に来られる公園にしていきたい。</p> <p>□公園は地域の方が集まる最高の場所。公園の活用をさらに進めていきたい。</p> <p>○公園にはいろんな人が来るようになり、不審者が現れないか心配。見守る人が必要。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p>	<p>⇒□「ホタルの会」の有志を募り、公園整備とホタルの育成管理を始めた。</p>